

中四国地方の幹線道路網 整備等に関する要望書

平成30年11月

中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会

中四国地方の幹線道路網整備等に関する要望

島根県、広島県、愛媛県、高知県に所在する 44 の経済団体に組織する中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会は、中四国地方が一体となって広域的かつ自立的な経済交流ネットワークを構築するため、様々な交流・連携事業に取り組んでおります。

「地方創生」の推進に向けて、各々の地域が産業活力を高めるためには、広域にわたる産学官の連携、地域経済の担い手である中小企業の活性化、さらには、地域資源を活かした観光振興等を推進しなければなりません。

これを実現するには、地域単独ではなく広域にわたる交流と連携を強化し、一体的な発展を図ることが必要であり、そのためには高速道路はもとより、地方都市間を結ぶ路線を含めた道路ネットワークの形成が不可欠であります。

また、国土強靱化の観点から、東日本大震災を教訓に、南海トラフ巨大地震等が想定される中四国地方においても地震・津波等の災害に強いインフラ整備とともに、高度経済成長期に集中的に整備した橋梁やトンネル等の老朽化対策を迅速かつ果敢に行うことが責務であると考えます。

こうした中、今後の道路整備にあたっては、費用対便益だけではなく、災害時の避難路確保や物資運搬等を円滑かつ確実に実施するための代替性・多重性を確保するなど、社会資本のストック効果が最大限発揮されるよう重点的な整備に取り組むことが重要であります。

また、人口減少時代を迎え、これまで経済成長を支えてきた労働者が減少しても、労働移動時間の約 4 割が渋滞損失である状況の改善など、労働者の減少を上回る生産性を向上させることで、我が国経済の持続的で力強い成長に貢献していくことが肝要であります。

さらに、中四国地方においては、高齢化が進行し、また、過疎化の進む中山間地域も多く抱えていることから、防災の面だけでなく、医療など「命の道」という面からも道路網の果たす役割は極めて大きいものがあります。

以上の考えのもとに、次の事項についてご配慮いただき、当地域の切望いたします別掲の幹線道路網について早期の整備を図っていただきますよう強く要望いたします。

記

1. 広域的かつ自立的な経済交流ネットワーク形成のために必要な幹線道路網の計画的かつ早期の整備
2. 地域の特性を最大限に発揮させるための都市圏交通基盤の整備促進
3. 橋梁やトンネル等の老朽化対策並びに安全で安心な災害に強い道路ネットワークの形成
4. 真に必要な道路整備並びに道路の老朽化対策を計画的に推進するために必要な道路関係予算の増額確保
5. 社会資本のストック効果が最大限発揮される重点的な整備
6. 訪日外国人をはじめ、利用者に分かりやすい道路・案内標識の整備促進

整備要望路線

1. 山陰自動車道・関連区間の早期整備

- ・ 出雲・湖陵道路、湖陵・多伎道路、多伎・朝山道路、大田・静間道路、静間・仁摩道路、福光・浅利道路、三隅・益田道路、益田道路、木与防災、長門・俵山道路、俵山・豊田道路の整備促進
- ・ 浅利～江津間、須子～萩間(木与防災を除く)、三隅～小月間(長門・俵山道路、俵山・豊田道路を除く)の早期事業着手

2. 四国横断自動車道・関連区間の早期整備

- ・ 窪川佐賀道路、片坂バイパス、佐賀大方道路、中村宿毛道路、津島道路の整備促進
- ・ 黒潮大方～四万十間、宿毛～内海間の早期事業着手

3. 今治小松自動車道の整備促進

- ・ 今治道路の整備促進

4. 高知東部自動車道、阿南安芸自動車道、高知松山自動車道、大洲・八幡浜自動車道の整備促進

中四国セントラルルート地域連携軸推進協議会

会 長	深 山 英 樹	広島商工会議所会頭
副 会 長	古 瀬 誠	松江商工会議所会頭
副 会 長	佐 伯 要	松山商工会議所会頭
副 会 長	青 木 章 泰	高知商工会議所会頭
副 会 長	久保田 一 朗	島根経済同友会代表幹事
副 会 長	池 田 晃 治	広島経済同友会代表幹事
副 会 長	山 本 恒 久	愛媛経済同友会代表幹事
副 会 長	熊 高 一 雄	広島県商工会連合会会長
副 会 長	村 上 友 則	愛媛県商工会連合会会長
副 会 長	吉 村 哲 也	高知県商工会連合会会長
副 会 長	荻 田 知 英	(一社)中国経済連合会会長
副 会 長	千 葉 昭	四国経済連合会会長